

豊通物流の物流センター向けに蓄電システムを納入 ～太陽光と自営線でつなぐ拠点間電力融通で、無駄のない自家消費を目指す～

2026 年 10 月 27 日

株式会社パワーエックス

株式会社パワーエックス（本社：岡山県玉野市、取締役 代表執行役社長 CEO：伊藤 正裕、証券コード：485A）は、豊通エネルギー株式会社（本社：愛知県名古屋市、代表取締役社長：吉川 宏次）と連携し、豊通物流株式会社（本社：愛知県名古屋市、代表取締役社長：坪野 仁志）の物流施設「みよし第 3 センター」（愛知県みよし市）に大型蓄電システム「Mega Power 2700A」1 台を納入しました。



本事業は、同センターの屋根に設置された太陽光発電設備（出力：858 kW）で発電した電力を、施設内で自家消費するだけでなく、自営線を通じて、隣接する豊通物流の 2 拠点および豊通ニューパック株式会社の施設にも融通する取り組みです。余剰電力は蓄電システムに蓄え、発電量の少ない時間帯に放電することで、拠点単位ではなくエリア全体で再生可能エネルギーを無駄なく使

い切ります。発電・需要・蓄電はエネルギーマネジメントシステム（EMS）で一元管理し、最適制御を行います。

太陽光発電を設置施設のみで自家消費する一般的な構成では、発電量の半分以上が余剰となり活用できない見込みでしたが、拠点間融通と蓄電システムを組み合わせることで、発電量の約 97% を自家消費できる計画です。これにより、年間約 472 トンの CO2 削減と、ピークカットによる最大デマンドの 3 割程度の抑制を見込んでいます※。不足分の電力については、豊通エネルギーが提供する再エネ電力供給スキームで調達しており、同センターの使用電力は実質的に再エネ 100% となります。

また、災害による停電時には電力系統から切り離し、太陽光発電と蓄電システムから同センター内に設けた避難エリアへ電力を供給し、地域防災の拠点として機能します。

なお、本事業は、環境省の令和 6 年度補正「民間企業等による再エネの導入及び地域共生加速化事業（新手法による建物間融通モデル創出事業）」に採択されています。

パワーエックスは、今後も国内で開発・製造する蓄電システムの提供を通じて、工場や物流施設など電力需要家における再生可能エネルギーの有効活用と、地域のレジリエンス強化に貢献してまいります。

※ 数値は導入シミュレーションに基づく見込み値です。

本件の概要は、以下のとおりです。

1. 納入製品

パワーエックス製 大型蓄電システム「Mega Power 2700A」1 台

2. 設置拠点および導入内容

- 拠点名称：豊通物流株式会社 みよし第 3 センター
- 所在地：愛知県みよし市打越町新池浦 11-3
- 蓄電コンテナ数：1 台
- 公称容量：2,742 kWh（一般世帯約 260 世帯の 1 日分の電力消費に相当）
- PCS 出力：650 kW
- 太陽光発電設備：858 kW（みよし第 3 センター屋根上）
- 電力融通先：三好第 1 センター、三好第 2 センター、豊通ニューパック株式会社（いずれも豊田通商グループの共創エリア「SC ビレッジ」内）

- 運転開始：2027 年 2 月（予定）
- 補助事業：令和 6 年度補正「民間企業等による再エネの導入及び地域共生加速化事業（新手法による建物間融通モデル創出事業）」

3. 大型蓄電システム「Mega Power 2700A」について

サイズ：20 フィートコンテナ（ISO 規格）

電池種類：リン酸鉄リチウムイオン（LFP）

蓄電容量：公称容量：2,742 kWh / 定格容量：2,468 kWh（1 台あたり）

生産地：岡山県玉野市

本プレスリリースに記載の各案件に係る売上は、2026 年 12 月期に計上予定です。プレスリリースは顧客との公表の合意が得られた段階で発表しており、適時開示の要否および時期とは必ずしも一致しません。

【報道関係者お問い合わせ窓口】

株式会社パワーエックス 社長室 広報担当(担当者：大津)

Email: pr@power-x.jp TEL: 050-1754-0205